

「第5回製剤機械技術研究会仲井賞」 受賞者の選考結果について

The 2005 Nakai Award of The Japan Society of Pharmaceutical Machinery and Engineering

仲井賞選考委員長 松田 芳久

Yoshihisa MATSUDA

The Chair of The Selection Committee of The Nakai Award

会員の皆様には既にご承知のことと思いますが、本研究会では創立10周年を機に、平成13年から標記の賞を設定し、製剤機械技術の進歩と発展に貢献した個人又はグループの功績を顕揚しております。今回は昨年10月31日を締切日として会報で受賞候補者を募集いたしましたところ、今回は3件のご推薦がありました。これらの候補者につきまして、選考委員会へ提出された推薦書及び関係資料を慎重かつ厳正に審査しました結果、下記のように受賞者として三宅 康夫氏と尾関 有一氏を決定し、同12月30日に会長に報告いたしました。この結果は本年4月11日に開催された平成17年度総会においても報告いたしました。授賞式は別に今秋10月14日に開催される第15回大会において行われ、併せて受賞講演をしていただくこととなっております。

なお、募集にあたっては一昨年より推薦書の形式をこれまでより簡略化し、お気軽に推薦していただけるよう、全面的に改めております。会員の皆様には、お近くのお知り合いで、本賞の受賞に相応しい業績をあげておられる方がおられましたら、本研究会の活動を一層活発にするために、ぜひ積極的にご推薦いただきますようお願いいたします。詳細につきましては、会報をご覧ください。事務局へお問い合わせ下さい。

記

- ・受賞者：三宅 康夫氏（千代田化工建設株式会社 医薬品エンジニアリング部）
- ・受賞テーマ：製剤機械技術分野と製剤機械技術研究会への貢献
- ・受賞理由：三宅氏がこれまでの豊富な経験に基づいて最近出版された『日本製剤技術史—20世紀の製剤技術—』は、戦後の我が国における製剤・包装技術についての情報を客観的かつ広範囲にわたって収集し、製剤現場における技術者の観点から製剤技術を集大成したものである。本書は製剤技術の更なる向上への貢献として、次代の研究者が製剤技術の礎石を理解するための貴重な技術継承資料を提供している点において、高い価値が認められる。
一方、氏は本研究会の設立時以来、今日に至るまで各種役員や大会の実行委員長を歴任されるなど、研究会の発展に対する貢献は万人の認めるところである。
したがって、これら一連の業績の厚みと大きさは授賞の要件を十分に満たしており、「仲井賞」授賞に値するものである。
- ・受賞者：尾関 有一氏（㈱三和化学研究所 製剤研究所）
- ・受賞テーマ：新規有核錠（OSDRC）の開発とその製剤特性に関する研究
- ・受賞理由：本研究における製剤技術は、有核錠の製造に関する新しいアイディアに基づいて、従来の有核錠における問題点であった品質及び生産コストの両面を解決したものである。本製剤の特徴は、これまでの有核錠と同等又はそれ以上の製剤特性を有していることであり、これらの製剤の物理的特性に関する研究成果は、著名な学術雑誌に掲載されているほか、国内外の特許も多数取得しており、錠剤製造法としての新規性及び実用性については高く評価できる。
以上のことから、本研究は新規の製剤機械技術の開発と進歩に寄与するところが大きく、「仲井賞」授与に値するものである。